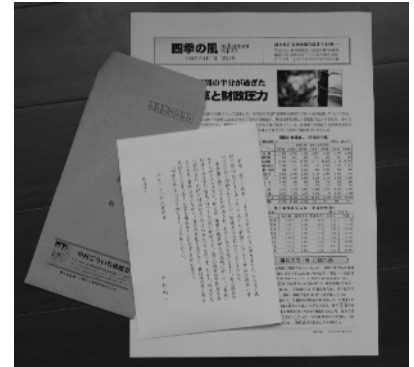


## 四季の風を終了します

議会報告「四季の風」は新聞折り込みと郵送で配布する。その数は新聞が1,100、郵送分は140部で作成はいつも20日頃になる。印刷原稿ができ上がり封筒の宛名印刷が終われば、郵送分に同封する「挨拶文」(写真:上紙)を作成して作業は全て終了だ。新聞原稿を書くのも楽しみだが、最後に書く「挨拶文」の作成は、仕上げた喜びと安心感でホッとする「書くのが楽しい一刻」である。最終号の今回は、その「挨拶文」の中から年毎に拾い出して載せました。長い間のご講読、心から感謝いたします。



前略 先の市会議員の選挙では、力強いご支援により当選までさせて頂き、本当に有難うございました。

もとより厳しい戦いになると思っておりましたが、毎日に状況がかわり、最終段階では「何とか行けそう」との感触を得るに至りました。これも素晴らしい運動員や、皆様方のお陰だと心から感謝しています。

当選後は、農業を中心とした産業の活性化や、地域の福祉・介護について精一杯頑張りたいと思います。また、応援して下さった皆様方や市民の声を聞かせて頂くため、引き続き後援会報紙「佐渡の風」を発行したいと考えています。今後とも宜しくお願いします。

平成十六年四月吉日

前略 田植えの季節になっても朝晩寒い天气が続きます。皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

今回は「憲法」という大きなテーマで書きましたが、とても気が重く、書くことを躊躇しました。私は二歳の時父親を戦争で亡くしました。そのこともあって、少し戦争に対して神経質に過ぎるのかも知れません。

私の思いを率直に書かせて戴きました。誰もが自分の国を大切に、その考え方は色々あるのだらうと思っています。従って記事に関してもご批判があることと思います。お聞かせくだされば幸甚に存じます。

「四季の風」第16号をお送り致します、ご笑納下さい。

平成十七年六月吉日

前略 朝晩めっきり冷え込み、季節の変わり目がはっきりと肌で感じられる頃となりました。

山里の妻の実家に時々行ってます。ダム建設のため新しい道路とトンネルができ、昔の姿からは想像できない変わりようです。

いざなぎ景気を超える景気が続いているという嘘のような話、「格差社会は当たり前」だと言ってはばからない冷酷な政治、近い将来農業が立ちゆかなくなりそうだと予感させる寂れゆく農村の姿と、そしてこの美しい山里の景色を、どう結び付けたいのだろうか。

「四季の風」をお送り致します、ご笑納下さい。

平成十八年十月吉日

前略 七日に金井大慶寺の「長屋門三十周年記念の集い」に参加した。住職の奥さんが同郷・同級で連絡を頂いたのだが、何よりもこの集いに「佐渡百三山踏破」を成し遂げた大山重雄さん(羽茂)の講演があるというからだ。

あいにく大山氏の講演は聴かれなかったが、代わりに講演した柳平君も同級で、彼独特の「話回し」を楽しんだ。「肅慎の隈」と日本書紀

の話から、大山さんが踏破した佐渡の山々にまつわる話など、久しぶりにいい時間が持てたことに感謝する。更に昼食には御馳走がいっぱい並び、瞬く間に一日過ぎ去った。「次代の風」をお送ります。

平成十九年十月吉日

前略 三日ほど風邪で寝込んでしまいました。市長から「新型インフルエンザ」の佐渡第一号ではないかと揶揄されました。

本会議の様子テレビ放送されお分かりだと思いますが、最近議会のルールがデタラメです。例えば、議案の提案理由の説明に対して、「質疑」は許されますが、「質問」はできないのが議会の規則です。

全ての議論は常任委員会に付託され、質問や討論はそこで行われるべきなのです。しかし、放送で見るとおり「質疑」と言いながら、自分の意見を述べたり、執行部の考え方を質問しています。早く正常な議会ルールに戻すことが必要です。

平成二十一年六月吉日

前略 宮沢賢治の「農民芸術概論綱要」に次の一節がある。

「嘗てわれらの師父たちは、乏しいながら可成り楽しく生きていた。そこには芸術も宗教もあった。いまわれらにはただ労働が、生活があるばかりである。宗教は疲れて近代科学に置換され、しかも科学は冷たく暗い。宮沢賢治、没後八十年である。我々がいま、賢治と同じ感慨に浸らなければならないのは辛いことである。(宇根 豊)

農業が存在することの理由付けなど、必要のないことなのだが、時代はそれに納得していないようである。すべての事柄を「有用性」で説明することが求められ、存在意義を定義化する輩が多くなってきた。

「四季の風」をお送り致します、ご笑納ください。

平成二十二年四月吉日

前略 すっかり秋らしくなってきました。二階の窓から差し込む朝の光が、ブラインド越しに柔らかく古里を包み込んでいます。

もうすぐ市議の二期目が終了します。新人議員で当選しましたが、年齢では上の方に入ります。新しい若い人が出てきて欲しいと考えています。政治に関心が薄くなり、新人の出にくい状況ではありますが、チャレンジする気概があれば必ず道は開けます。少なくとも、今の議員の大半を「入れ替える」くらいの大手術が必要ではないでしょうか。

次の選挙では新人議員当選のため、皆様方の大きな力添えをお願いしたいと思います。「四季の風」をお送り致します。

平成二十三年九月吉日

< これで「四季の風」の筆を置きます。有難うございました >